夕刊 讀賣新聞 2013年(平成25年)10月5日(土曜日)

未婚卵子凍結 9施設で

岡山大調査 「将来実施も」71施設

健康な未婚女性が将来の不妊に備えて行う卵子凍結を、全国で少なくとも9施設が実施していたことが、岡山大の中塚幹也教授（生殖医学）らによる初の実態調査でわかった。さいたま市で開かれている日本母性衛生学会で5日発表した。

日本生殖医学会は9月にこうした卵子凍結を容認する指針案を公開したが、回答した産婦人科施設の半数以上が「倫理的に問題ない」と答えており、今後、実施施設がさらに増えそうだ。

調査は2012年6～8月、全国の産婦人科1157施設に対して無記名での回答を求め、415施設から有効回答を得た。凍結保存を「実施したことがある」と答えたのは9施設（2％）と多くはなかったが、257施設（62％）が「倫理的に問題がない」と答え、71施設（17％）が「将来実施する可能性がある」と回答した。

健康な未婚女性の卵子凍結は、母子ともに危険が高まる高齢出産を助長するなどの懸念もある。同学会の指針案は、これを容認した上で、卵子の採取は40歳未満、受精卵の移植は45歳未満と年齢の目安を示した。

中塚教授は「カウンセリングの体制や保存した卵子の管理など課題も多く、社会的な議論が必要だ」と話している。